

「発達心理学 I」(P002) 再提出用レポート課題

※別添解答用紙をコピーし、解答を記入して「その他のレポート送付について(シラバス・レポート課題集VIページ参照)」により送付してください。

※以下(1)から(4)の問題は、それぞれの問題の○×組み合わせがすべて正答であるときに点数が得られる。

(1) 次の①から④までの発達に関する記述において、適切なものに○、適切でないものに×をつけてください。

- ①人の発達には母胎の外に出てから始まる。
- ②人の心理発達において退化も発達に含まれる。
- ③子どもが自国の言葉の話せるようになることと、自国の言葉に含まれない音韻の区別ができなくなることも発達という。
- ④人の発達には順序があっても、同じ速度で発達がすすむわけではない。

① () - ② () - ③ () - ④ ()

(2) 次の①から⑤までの発達のメカニズムに関する記述において、適切なものに○、適切でないものに×をつけてください。

- ①行動主義の **Watson, J.** は誕生後の経験が発達を決めると考えた。
- ②**Stern, W.** の輻輳説では、例えば知能や性格ごとに遺伝の割合と環境の割合が決められているという考え方である。
- ③遺伝と環境の相互作用説では、十分な環境が与えられていれば遺伝的要素がなくとも行動として表現されると考えられる。
- ④**Gesell, A.** の言うレディネスとは学習が成立するために必要な環境状態のことをいう。
- ⑤**Bronfenbrenner, U.** の生態学的発達論における子どもを取り巻く環境では、少子高齢社会はメゾシステムにあたる。

① () - ② () - ③ () - ④ () - ⑤ ()

(3) 次の①から④までの発達の諸理論に関する記述において、適切なものに○、適切でないものに×をつけてください。

①Piaget,J.によれば、感覚運動的段階において乳児は身体的なかかわりによって知識を取り入れる。

②Piaget,J.の認知発達論において知覚的な制約を受けて、直観的に物事を判断する段階は感覚運動的段階である。

③Erikson,E.H.によれば、アイデンティティの形成は生涯続く発達過程である。

④自分ひとりで解決できる知的活動領域と大人や自分より発達が進んでいる友だちと一緒にあれば解決できる知的活動領域のことを発達の最近接領域という。

① () - ② () - ③ () - ④ ()

(4) 次の①から⑤までの乳幼児期に関する記述において、適切なものに○、適切でないものに×をつけてください。

①Harlow,H.F.のアカゲザルの実験において、乳児にとって親子関係を形成する上で、飢餓を満たしてくれるミルクが重要であることが示された。

②Bowlby,J.の愛着理論はエソロジーの視点も導入されている。

③Bowlby,J.によれば、愛着は母親との愛情の絆の事を言う。

④Ainsworth,M.によって考案されたストレンジシチュエーション法では、アタッチメント対象を「安全基地」として利用できるかどうかも重視される。

⑤アタッチメントの機能の一つは他者によるネガティブ情動の調整である。

① () - ② () - ③ () - ④ () - ⑤ ()

(5) 次の①から⑧に最も適切な言葉を入れなさい

1 Freud,S.人の発達について (①) の発達からとらえていたが、エリクソンは、心理社会的側面を重視している。

2 Piaget,J.の認知発達論における感覚運動的段階の重要な発達の一つである (②) は、事物が時空間的に存在し続けるという基本法則に気づくことである。

3 Piaget,J.認知発達論において認知発達メカニズムには二つの過程がある。乳児がおっぱいを飲むときの吸啜していたのをおしゃぶりなどのおもちゃにも適用するのは (③) の過程の例をとってあげられる。

4 Piaget,J.の認知発達論において、自己中心性の存在を示すために用いられた有名な (④) という課題では、幼児が自分の「ものの見え方」に左右されてしまい、自分以外の別の人の視点を取ることができないことが示されている。

- 5 **Thomas,A.**と **Chess,S.**の気質に関する考え方では、**9**つの次元の程度によって(⑤)つのタイプに分類した。そのタイプのなかで、泣きが激しく、お風呂や食事をすると泣いて嫌がり、寝たり起きたりする時間などが不規則な子どもは(⑥)タイプに分類される。
- 6 脳の可塑性において、盲の人の視覚野が光刺激に反応しなくなり、視覚野が指先の刺激に反応するようになることは(⑦)にあたる。
- 7 言語の発達における文法獲得のメカニズムについては研究者間で一致していないが、(⑧)は人間が短期間で効率的に言語獲得できるのは世界中すべての言語の文法に共通の普遍文法をもっているからだと主張した。
- 8 感情は運動や認知、自己の発達と密接に関わり、次第に分化していき、生後**3**歳くらいまでには成人の感情の大部分が出現すると考えたのは(⑨)(人名)である。
- 9 乳児研究において代表的な研究法の一つ(⑩)は、二つの刺激を同時に提示し、注視時間に偏りがあるかどうか測定する。
- 10 乳児は自分がどのように行動したらよいかわからないようなあいまいな事象に遭遇したときにそれに対処するために他者の感情表出をみて、それを手がかりとして自分の行動を決定しようとする。そのようなことを(⑪)という。
- 11 乳児の運動は原始反射ばかりではなく、自発的な運動もみられ、その一つに(⑫)がある。それは全身を使った複雑な運動である。
- 12 話し手の発話の音の変化が乳児の身体の動きに一致していることが見出されており、これを(⑬)という。
- 13 ストレンジ・シチュエーション法において、養育者が部屋からいなくなっても変わらずに遊んでいるように見えたり、再会場面で近接を求めないなどの行動を示す場合には(⑭)と分類される。
- 14 たとえば「プレゼントをもらったときにそれが気にいらぬものであっても、がっかりした表情をしない」といったどのような場面でどのような感情表出すべきかといったガイドラインを(⑮)といい、**3**、**4**歳くらいの幼児でも(⑮)に従って感情表出を行うことがわかっている。
- 15 他者の行動の背景にある心的状態を推測するための理論に(⑯)があるが、ここでいう心的状態は他者がもっている知識、欲求、信念などを意味している。
- 16 双生児研究では、ある能力の類似性について(⑰)性双生児よりも(⑱)性双生児の方が高いと、その能力は遺伝的要素の役割が大きいと考える。

「発達心理学Ⅰ」(P002)
再提出用 レポート課題解答用紙

※ この解答用紙をコピーし、解答を記入して「その他のレポート送付について（シラバス・レポート課題集 VIページ参照）」により送付してください。

※ (1) から (4) の問題は、それぞれの問題の○×組み合わせがすべて正答であるときに点数が得られる。

(1) ①()-②()-③()-④()

(2) ①()-②()-③()-④()-⑤()

(3) ①()-②()-③()-④()

(4) ①()-②()-③()-④()-⑤()

(5) ①	②	③
④	⑤	⑥
⑦	⑧	⑨
⑩	⑪	⑫
⑬	⑭	⑮
⑯	⑰	⑱